



3学期、卒業式まで4日です。

6年生を送る会が終わったと思うと、あっという間に、卒業式まで残すところ4日となりました。今の鴨西の朝の時間は、卒業式に向けて校歌を練習する歌声や、別れの言葉を練習する声が教室から飛び交っています。

学校だより3月号（R5年度最終号）では、学校運営協議会の場で2月末に承認頂いた、学校評価書を皆様にご報告します。

【学校評価書（公表）】

R5年度の学校評価書について、以下に報告します。学校が立案した単年度目標の達成状況について、保護者・児童・教職員に実施したアンケートや客観的数値（単元末テストの結果や体力テスト結果等）をもとに、学校が自己評価しABCランクに整理しました。更に、学校の自己評価の内容を学校運営協議会で説明し、学校運営協議会の皆様に承認頂きました。

■概況

	中期目標	単年度目標	学校自己評価	学運協評価※
思いやりのある子ども	自分や他人、地域を大切に出来る子どもを育てる。	①思いやり（言葉遣い・言動）のある児童を育成する。	B	A
		②気持の良い挨拶を進んできることができる児童を育成する。	B	B
		③互いを認め合える心を育てる。	B	B
進んで学ぶ子ども	主体的に「問い」をもち、楽しみながら「問い」を解決していこうとする子どもを育てる。	④算数科を楽しむ児童の姿を目指して、授業研究を行う。	A	A
		⑤基礎的・基本的な学力の定着を図る。	B	B
元気な子ども	基本的な生活習慣の向上に努める。	⑥自分の生活習慣を見直し、改善していくことのできる児童を育てる。	B	B
	体力づくりを推進する。	⑦業間運動の取組を充実させることにより、運動の楽しさを感じ取らせる。	A	A
地域と学校共に	保護者・地域から信頼される学校を目指す。	⑧保護者や地域のニーズに合った情報を積極的に発信する。	A	A
	地域・保護者・学校が連携して教育活動を進めることにより、共育目標の実現を目指す。	⑨地域連携年間計画に則り、教育活動を推進する。	A	A

※：学運協： 学校運営協議会

■分析・改善施策

【思いやりのある子ども】

児童・教職員は、「児童が相手の気持ちを考えた行動ができる」について95%が「できている」と感じているが、保護者は「できている」が88%であり、目標の90%以上に対して未達に終わった。今後、どのようにして保護者に児童の姿を伝え広げていくのか、また、学校と家庭での役割についてどう捉えるのか考えていく必要がある。

【進んで学ぶ子ども】

研究発表会に向けて、教職員が共通理解を図って算数科の授業改善に取り組んだことが、児童の「算数科への興味・関心・理解」の向上につながった。しかしながら、基礎的・基本的な学力の定着については、今後も取組を継続・改善していく必要があると感じている。また、児童一人一人の伸びに注目できる達成基準を次年度以降設定するよう検討する。

【元気な子ども】

担任や委員会の取組により、休み時間にしっかり体を動かす児童の姿が認められた。体力テストでは、6学年中5学年が、全国平均値を大きく上回る結果だった。生活習慣の見直しについては、家庭と連携を図りながら改善策を探る。

【地域と共にある学校】

様々な媒体で情報発信を行うことで、保護者・地域からの信頼を得ていると言える。今後保護者へはデジタルでの情報発信が主となるため、新たな配慮が必要となる。

鴨西わくわく応援隊の年間活動が、児童・保護者に周知、理解され、特色ある教育活動の柱となっている。今後も鴨西わくわく応援隊とともに、地域に開かれた学校づくりを進めていく。

■学校関係者評価（学校運営協議会）

【思いやりのある子ども】

- ・「はなまるカード」の取組から、教師が児童をしっかり見て、ほめて思いやりの心を育てようとしていることが伝わる。(◎)
- ・児童アンケートで「クラス全員の一人一人のいいところを見つけて伝えることができる。」に当てはまらない回答が10%あることが気になった。これから先、自分の考えを伝える力は必要である。人と関わる体験を通して身に付けてほしい。(△)

【進んで学ぶ子ども】

- ・児童アンケートで「学校や家で読書をしている」の肯定的回答が下がっていたことが気になった。(△)

【元気な子ども】

- ・保護者と学校の情報共有の方法に工夫が必要だと思われる。「さわやかチェック」の結果や宿題や授業予定の伝達方法は、デジタルよりも、紙や連絡帳の方が向いているかもしれないが、今後は情報共有手段はますますデジタルにシフトしていく方向ゆえ、新たな配慮が必要となる。(△)

【地域と共にある学校】

- ・「鴨西マルシェ」の体験で、子どもたちが大きく成長した。地区内外から多くの称賛の声が聞かれた。(◎)

【学識からの評価】

- ・学校教育目標や目指す子ども像について、教職員だけでなく、地域住民や保護者の方々もベクトルを共有して、まさに鴨西チームで取り組んでおり、データ等からも着実に成果がみられる。(◎)

添付： R5学校評価書（鴨方西小学校）